

市場で注目株の果実【晩白柚（ばんぺいゆ）】

～観賞用としても楽しめる世界最大の柑橘～

晩白柚の原産地はマレーシアとかポリネシアと言われており、ブンタンの仲間です。ブンタンには現在、「阿久根文旦」「土佐文旦」「平戸文旦」「水晶文旦」「河内晩柑」等多品種があります。

晩白柚は柑橘の中でも最も大きいものになります。1920年にベトナムから台湾に導入され、日本では30年に鹿児島県で導入されたと伝えられて



います。その後、熊本県果樹試験場で試作した結果、同県の風土に適していることがわかり、改良を重ねて現在の優れた熊本県産の晩白柚が生まれました。

果実は2キロ前後の大果で果皮は淡黄白色、果肉は淡い黄緑色で柔軟多汁、芳香があって食味がよく独特の風味を持っています。

熟期は2～3月ですが、収穫は12～1月で出荷は2～4月期。全国の生産量は約1100トンでその約90%が熊本県。さらにそのほとんどが八代地区で占めています。

晩白柚の名前の由来は台湾の在来種「白柚」より熟期が晩生のため「晩白柚」と命名されました。

2021年には5,386gの晩白柚がギネス世界記録に認定され、世界最大の柑橘であることから「柑橘類の王様」と呼ばれています。ちなみに一番小さいのはキンカン。

玄関の床の間などに飾り、香りや大きさ、色、形など観賞用としても楽しむことができます。保存性が高く常温の室温でも一か月以上変質もせず上品な香りが長く楽しめます。

表皮が厚いので中身を食した後に皮を利用した楽しみ方として、お菓子作り（ビタミンCが多い）や晩白柚風呂などもあります。

（ 金澤 誠 筆）